

NCNL

No. 26  
2009. 12

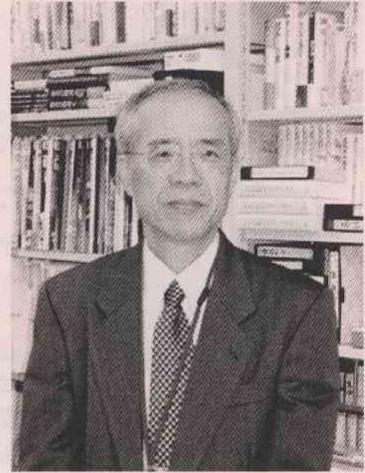
# 図書館だより

## ハイブリッドライブラリー

Contents	ページ
ハイブリッド ライブラリー	1
新図書館長就任	2
エッセイ「私の図書 館利用法」	3
関病記を購入 書評	3 4
「生きて死ぬ智慧」	
図書館利用状況	5
新図書委員あいさつ	6
寄贈図書案内	6
上越教育大学附属 図書館の利用拡充	6

図書館の将来に  
想いをはせる

前図書館長 関谷 伸一



ハイブリッドhybridとは、Longmanの英英辞典によると、「a living thing produced from parents of different breeds」とあります。この意味から、品種の異なる雌雄をかけ合わせることによって新たな性質をもつ交雑種をつくりだしてきた育種家たちの品種改良の歴史が思い起こされます。そして同辞典にあるもう一つの意味は、a machine that contains parts of different machinesとあり、言うまでもなく、今流行のハイブリッドカーがこの典型的な例と言えるでしょう。図書館の世界でも同じようにハイブリッドライブラリーという言葉が生まれ、これからの図書館のあるべき姿の一つとして盛んに唱えられています。このハイブリッドライブラリーは、書籍・雑誌を中心とする従来型の図書資料を備え、同時にコンピュータやインターネットを利用して電子情報を提供するいわゆる電子図書館の機能とを兼ね備えている図書館のことです。本学の図書館もわずかではありますが、マルチメディアを備え、インターネットを使って情報収集もできるようになってきました。紙と鉛筆を持って図書館の書庫にこもり時間と忍耐をかけて文献を探さなくても、コンピュータで簡単に検索できるようになりました。ただし当然のことながら電子化されていない情報は現物に当たらないを得ませんし、コンピュータを使えなければやはり本や雑誌のページを自分でめくらざるを得ません。そういう意味では、ハイブリッドカーが脱ガソリン車の前段階の車であるように、完全なる電子図書館への移行状態にあるのがハイブリッドライブラリーなのかもしれません。たとえばそうであっても、異質なものが合体することによって、新たな性質や特色が生まれ、利便性が向上し新しい飛躍につながると言う意味では、新品種誕生と同じく、人類の英知による大成功の一つと言えます。

ところで、このような明るい話題に冷や水をかけることになるかもしれませんが、生物の世界では、異なる種(シュ)が自然に交雑することはあまりありません。たとえ交雑したとしても、ウマとロバのかけ合わせでできるラバのように、その雑種は不妊になることが多く、種間雑種ができないような仕組みが存在しているようです。これは何を意味するのでしょうか？本とコンピュータがウマとロバである、とでも言いたいのでしょうか？そうではありませんが、便利なものの中には時として落とし穴があることへの警鐘ではないかと考えています。ハイブリットカーが静かすぎて危険であるという指摘は、幸いハイブリットライブラリーには適用されません。逆に、近くでコンピュータを操作している人のキーを打つ音が気になるくらいでしょう。たとえ落とし穴があったとしても、次世代の人々はそれらに適応し、乗り越えていってくれることでしょう。すでに私たちは、電子化された文献情報を研究室にいながらにして入手できます。これから電子化がさらに進めば、ますます私たちは図書館から離れていってしまうのではないかとさえ思えます。

しかし新刊の雑誌のページをめくりながら新しい情報に胸をときめかしたり、ページの片隅に書かれている何気ない話題にはっとさせられたりするの、印刷物を

(2 ページに続く)

(1 ページから続く)

手にして初めて可能なような気がします。ですから冊子体も捨てがたいのです。また、書庫での古い本の匂いを嗅ぎながら先人の努力や苦勞に思いをはせることができるのも、やはり本そのものを手にすることができるからです。創作されたエンジン音に胸をときめかすドライバーがいるように、人間の五感に訴えるものが私たちには必要なのではないのでしょうか。そのような意味からも、やはりハイブリッドライブラリーがこれからの図書館として望ましいのではないかと思います。またそのためにも、私たちは情報入手のために図書館を利用するだけでなく、

自分たちの持っている情報を積極的に電子化し提供して図書館づくりをする責務もあるのではないのでしょうか。

閲覧机やブースの個室的な静かさが保たれ、逆に図書館の資料を目の前にして複数の利用者が議論することができる空間があり、コンピュータですぐさま世界中の情報が入手でき、そして疲れたらお茶を飲んで休憩できるような図書館を夢見ます。これから図書館がますます「面白い、集える場所」になるものと期待しています。

(せきや しんいち)

## 新図書館長就任

図書館長 中野 正春



**平**成21年10月より関谷伸一教授に替って図書館長を務めさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

関谷前図書館長と引き継ぎをさせていただきましたが、現在本学の図書館が抱

える問題には、本学の図書館独自の問題と全国的な流れの中でどの図書館もある程度抱える問題の二つがあることがわかりました。

本学図書館独自の問題としては、先ず、相も変わらぬ館内のスペースの不足に伴う視聴覚資料も含めた閲覧場所の不足や設備の不足があげられます。これに関しては新棟を建設するなどの大掛かりな改善が必要となるので今のところは既存の設備を最大限活用してゆくということでしょうか。また、開館日や開館時間の増加もいつも学生の希望アンケートで上位を占めている事項です。これについても予算措置やセキュリティーの問題もあり簡単に解決することではありません。少しずつでも希望に沿った方向に向かって行きたいと考えます。予算といえば年々図書館費が減少して、図書・雑誌の購入数が減少の一途をたどっています。全国的な流れでもある電子ジャーナルの導入のためにはさらなる図書・雑誌購入を減少しなければなりません。蔵書を増やすという宿命と相反する命題ですが折り合いをつけてゆかなければならないところだと考えます。

全国的な流れの一つとして電子ジャーナルの導入があります。しかし、本格的導入には高額な予算が必要となります。そこで、関谷前図書館長のご努力で雑誌購入の費用を削減することによりなんとか一部でも導入するということが進められており、来年度は部分的な導入ができるようになります。本格的導入を目指して今後も努力してゆきたいと考えております。また、これは関谷前図書館長が最初に図書

館から始めたため結果として図書館が音頭をとっている形となっている、リポジトリの構築です。リポジトリとは教育研究活動の成果物を電子的に保存し、公開するインターネット書庫のことです。現在図書館で新潟県立看護短期大学紀要のリポジトリ化を進めております。現在は著者に許諾を頂いてよいよ電子化の作業に入る状態であります。このほか大学の看護研究交流センターの年報、広報委員会の著作物などをリポジトリ化することが大学全体で進められております。このような機関リポジトリのほかにも他大学との地域リポジトリの構築も関谷前図書館長のもとで進められてきました。リポジトリ化は今始まったばかりですが今後ますます充実したものになるべく、図書館のみでなく大学全体として取り組んでゆく方向にあります。さらに全国的な流れとしてあるのは他大学や地域の図書館との連携の充実でしょう。すでにリポジトリで述べた地域リポジトリは新潟大学が主体となっている新潟県地域共同リポジトリに参加しております。また、上越教育大学附属図書館とは相互協力協定を締結しています。このような連携事業は全国的な流れとなっております充実してくると思われま。

以上関谷前図書館長のご努力によって、いろいろな事項が実現してきておりますが、それを引き継いでさらに発展させて行ければと考えております。本学図書館の統計では入館者数、貸出件数、文献複写件数などが年々減少傾向にあるとのことです。どうしたら、利用しやすい図書館になるのか等図書委員会の委員の皆さんと知恵を出して考え、それを実行してゆきたいと思っております。機会あるごとに利用者の皆様も建設的なご意見をお寄せいただけますようお願いいたします。

以上、まとまりがありませんが、就任のご挨拶とさせていただきます。

(なかの まさはる)

## 連載企画1 エッセイ “私の図書館利用法”

## 最近の図書館利用法

学部3年 坂本 けい

**私**は小学校の高学年の頃、かなりの頻度で図書館を利用して本を読んでいたが、徐々に図書館の利用頻度が減っていました。しかし、大学に入ってからは、また図書館を利用することが増えました。1、2年生の頃はレポートの為に本を借りたり、図書館でテスト勉強をしたりしました。そして、3年生になり実習が始まると、疾患や看護について調べる機会が多くなり、本を借りることも更に増えました。

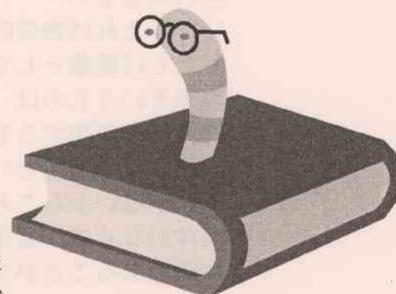
大学の図書館には疾患や看護についての本が揃っています。医学・看護関係の書籍の中でも、疾患について医学的な視点で書かれている専門的なものや疾患・領域別の看護方法が書かれている本、また患者や家族に向けてわかりやすく書かれた本など、多くの種類があります。

多くの本があるので何でも調べることが出来ると思いましたが、私は逆に、本が多過ぎてどのように本を探して調べれば良いか迷うこともあります。そういう時に思うことは、自分の調べたい内容

について整理してから探すことが大切ということです。「自分は〇〇という疾患の病態(看護方法)について知りたい」と探したいものをはっきりさせておくことで、本探しが楽になります。また、本の内容やわかりやすさも大切になると思います。専門用語が多用されている本は、読みにくかったりそれを調べる本が必要となることがあったりします。本の中身を確認して、自分が理解できるか、更に調べる為の本が必要かなどを把握した上で借りると、後で困ったり、読まずに返却することも減ると思います。みなさんは意識しないで行っていることと思いますが、私は実習での本探しを通して、これらの手続きの大切さを感じるようになりました。

また、最近このように図書館に行く機会が増えたことで、色々な本を読んでみたいという思いが、再び私の中にもわいてきています。本を探す過程で目に留まったいくつかの本を、実習の気分転換や一段落した時の楽しみとして読みたいと思っています。

(さかもと けい)



## 頼りになります

院生1年 後藤 香澄

〆の度、再び学生として学ぶ機会を得て、早いもので半年以上が過ぎました。

私は、大学院に通う前にも何度かこちらの図書館に足を運んだことがありました。保健師として働く中で、業務をまとめたり研究に取り組もうと思った時に頼りになるのは専門文献や書物です。看護系大学の図書館の魅力は、専門文献が数多くそろっていることです。働きながら大学院に通うようになり、その恵まれた環境を再認識しました。図書館では、学部生さんが夜遅くまで熱心に勉強している姿だけでなく、学外の方が文献を探しに来ている姿も見かけます。学生だけでなく地域の看護職にも頼りにさ

れていると実感します。

また、授業では分からないことや

もっと深く学びたいこと、課題にたくさん出会います。そんな時は、図書館の数多くの専門文献から必要とする文献を検索し、参考図書を借り、学びを深めることができます。司書さんには文献検索講習会で丁寧に教えていただき、また、利用の仕方に慣れない時期には相談にのっていただきました。おかげで、この半年の間に文献検索に徐々に慣れることができました。そして、20冊3週間という貸出冊数と期間で随分と助けられています。これからも図書館は頼りになる存在として、私の大学院生活を支えてくれると信じています。

(ごとう かすみ)

## 闘病記を購入しました

図書委員会において“闘病記”を重点収集図書とすることになり、今年度は「癌に関する闘病記」を中心に購入しました。“闘病記”には患者さんやその家族が病気や死とどのように向きあい、どのような思いで生活をしているか、また医療に対する期待や不安が率直に語られています。患者の心を理解し、患者主体のケアを行う上で“闘病記”は多いに役立つでしょう。

分類記号はN049で始まり、内容によってN049.1～N049.9に分かれています。

(例) N049.1 がんの闘病記、N049.2 小児がんの闘病記、・・・N049.7 精神疾患の闘病記・・・等  
配架場所は、1階の棚番号1の左側です。ぜひご利用ください。

すでに館内で所蔵している闘病記も順次移動する予定です。

このほかに読みたい闘病記がありましたら、ぜひリクエストしてください。

## 連載企画2 書評

## 『生きて死ぬ智慧』

柳澤桂子著・堀文子画・小学館・2004年

教授 杉田 収

ここで紹介する書籍は女性の生命科学者である柳澤桂子が解釈した般若心経（はんにやしんぎょう）です。ブッダ（釈迦）の志を引き継ぐ我が国の仏教のほとんどは、般若心経を唱えています。通常仏事で読まれる般若心経は僅か266文字の短いものですが、大乘仏教の神髄が説かれていると言われていています。私たちにとって「いかに生きて」「どのように死を受け入れるべきか」が最大の関心事ですが、現代科学の知識を持った柳澤が、般若心経にその解答を見つけ、それが説く「空（くう）」の心を、現代語で「生きて死ぬ智慧」と訳しました。堀文子による絵が10枚入って全部で47頁の本ですから30分もあれば読み終わられるでしょう。私は折に触れ何度も読み返しています。般若心経に「色即是空」「空即是色」の8文字があります。柳澤はこれを以下のように解釈しました。

形のあるもの  
 いいかえれば物質的存在を  
 私たちは現象としてとらえているのですが  
 現象というものは  
 時々刻々変化するものであって  
 変化しない実体というものはありません  
 実体がないからこそ 形をつくれるのです  
 実体がなくて 変化するからこそ  
 物質であることができるのです

現代化学は、物質はエネルギーであり、原子は不変なものではなく変化するものである。また原子を構成する電子と陽電子が衝突すると光（ $\gamma$ 線）を出して両者は消滅する。そしてその光なるものは波であり粒子でもあると教えます。さらに理論天体物理学では、宇宙は137億年前のビッグバン後、膨張し続けているが、素粒子のニュートリノに重さがあることがほぼ確かであるので、いつかは宇宙の膨張は一転して収縮に向かうだろうと予想していません。宇宙はエネルギーに充ち溢れ、それがあつた時には形ある物質になり、またいずれ形のないエネルギーに戻るといふのです。柳澤は別の著書（『癒されて生きる』岩波書店 1998）で「宗教と科学は相容れないものではない」と言い切っています。

柳澤は1938年の東京生まれで、2009年の今年71歳です。32歳からめまい、吐き気、腹痛の症状がでましたが、「検査値に異常がみられなかった」ことから、原因は「心因性」とされました。そのため精神科や心療内科にも受診しましたが、こちらでは「心の問題ではない」と診断されました。結局よく分からない「病氣」とともに30年間近くを過ごしました。その間には職を失い、子どもを残しては何度も入退院を繰り返す、肉体の苦しみと孤独という精神的な苦悩を味わい続けたようです。柳澤はそんなときに「すべての執着から自由になった心の状態」を説く「般若心経」をくり返し読んでいます。そして三菱生命科学研究から解雇される電話を受けた夜、「般若心経」を読んだ後に不思議な神秘体験をしました。その体験で「宇宙のなかでの自分の小ささ」に気づき、苦しみから脱却できたと述べています。

この本に描かれた堀の絵は宇宙と生命を感じさせます。見開きの絵（春を待つ鳥）は、数羽の小鳥が木に止まっているように見えるのですが、心して観ると10羽以上の小鳥が書き込まれています。この絵で堀は意思を持って物事を観なければ真実は見えないこと、生命は自然に溶け込んでいることを私たちに教えているように思います。



## 請求記号

『生きて死ぬ智慧』

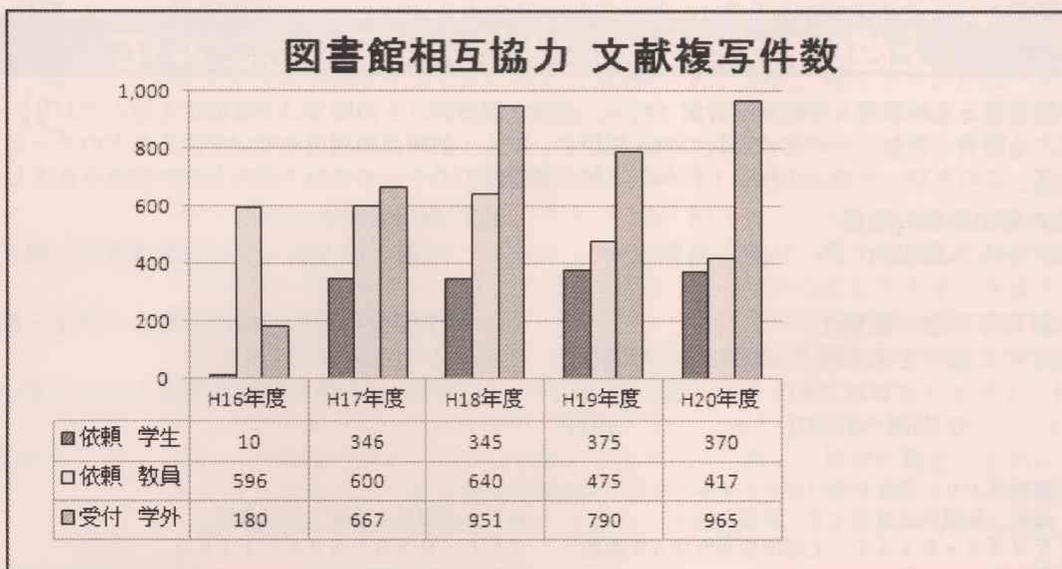
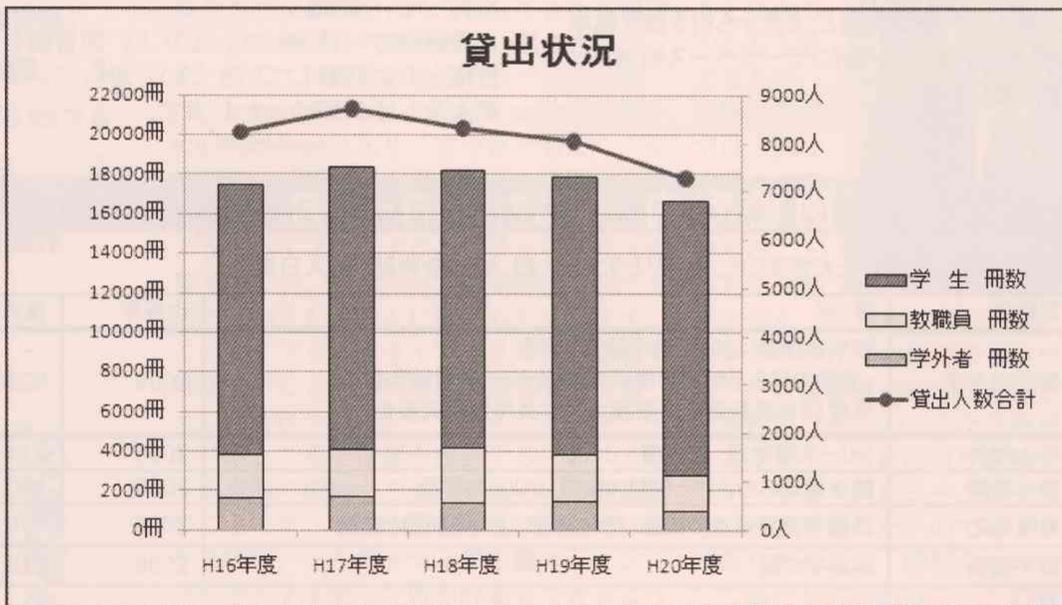
183.2-Y53 (2階棚14)

『癒されて生きる』

914.6-Y53 (2階棚25)

(すぎた おさむ)

## 図書館利用状況～過去5年～



## 新図書委員紹介

平成21年10月に図書委員が交替しました。新たに委員となった教員を紹介します。

### 加城委員（選書、資料管理保管担当）

看護の対象は様々な人生経験の方々です。その人の気持ちを理解するには本を読んで自分では経験することのない人生を理解する努力が必要です。

学生時代そう言われて1日1冊以上のペースで読みました。現在でも、人から紹介された本や目にとまった本は読むようにしています。

本は多くの情報を得るだけでなく、心も豊かにしてくれます。

### 平澤委員（選書担当）

私の今年のお気に入りの1冊は、『やんごとなき読者』アラン ベネット著/市川恵里訳（白水社）です。70歳代後半の現女王エリザベス二世が読書にはまって公務はうわの空、さあ大変・・・という架空のお話です。女王様曰く、「本は想像力の起爆装置ですもの」。

お勧め本の情報交換コーナーなど、図書館を楽しむアイデアや方法を皆様と考えていきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

### 渡辺委員（雑誌、オンラインデータベース担当）

本学の図書館はこぢんまりとしています。文学や写真集などの所蔵も意外と充実しています。自習や調べ物以外にも、図書館を活用してみませんか。よい本との出会いは自分の世界を広めてくれます。

このほか、中野委員長と、9月から引き続き橋本副委員長(雑誌、オンラインデータベース担当)の6名で活動します。

### 郷委員（図書館広報活動担当）

図書館は、「特別な雰囲気を持った場所」と思っています。図書館に身を置いて本や資料などと向かい合っていると、時間や空間を超えて思考に埋没できます。このような図書館で、皆様が新しい本と出会って世界を拡げたり、学習を深めたりできることを祈っています。

委員会の一員として、よりよい図書館を目指し、皆様と共に活動していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 寄贈図書案内 平成21年6月～10月

下記の著書をご寄贈いただきました。ありがとうございました。(敬称略・受入日順)

	寄贈者	書名	出版年	請求記号
教員	粟生田友子	新卒看護師における職場認知と適応 -施設の異なる新卒看護師の語りから- 研究報告書 平成19年度新潟県立看護大学学長特別研究報告	2009	N232-A51
		村山和夫	シリーズ藩物語 高田藩	2008
学外	清水哲郎	臨床倫理の考え方と検討の実際 2009年春版	2009	490.15-Sh49
	岩崎保之	目標準拠評価論の研究 学校教育における理論と実践	2009	375.1-I96
	市川信夫	ふみ子の海	2006	913.6-I14

雑誌・紀要の新規寄贈受入報告は、割愛しました。

## 上越教育大学附属図書館の利用拡充について

本学図書館と上越教育大学附属図書館（以下、上教大図書館）の間では交流協定を結んでおり、それぞれが所蔵する図書、雑誌、その他の資料の相互利用や、学生・教職員の利用の便宜を図るなどのサービスを行っています。このたび、平成21年11月から上教大図書館でのサービスが下記のとおり拡充されました。

### ① 館外貸出冊数の増冊

(旧) 一人3冊以内 → (新) 8冊以内

### ③ 利用講習会の参加

上教大図書館主催の利用講習会へ相互参加可能

### ② 文献複写料金の低額化

来館せずに複写を取り寄せる際の料金が低額化  
(旧) 1枚モノクロ35円 → (新) 10円  
カラー 80円 → 50円

本学図書館でも同様に上教大の学生・教職員へのサービス拡充を図りました。

これからも相互利用の推進を図ってまいります。

図書館だより 第26号 (2009年12月17日発行)

編集：新潟県立看護大学 図書委員会

〒943-0147 上越市新南町240番地

E-mail: tosy@niigata-cn.ac.jp

発行：新潟県立看護大学図書館

TEL: 025-526-1169

URL: http://lib.niigata-cn.ac.jp/